



日乗連ニュース ALPA Japan NEWS

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan

DG 委員会

〒144-0043

東京都大田区羽田5-11-4

フェニックスビル

TEL.03-5705-2770

FAX.03-5705-3274

E-mail:office30@alpajapan.org

www.alpajapan.org

Date 2012.2.2

No. 35 - 31

皆さんの身近なバッテリーは大丈夫！？

近年、ノートパソコンやデジタルカメラだけでなく、iPhone や iPad をはじめとする様々な携帯端末製品が普及しています。当然ながら上記全ての製品にはバッテリーが使用されています。バッテリーの種類は多種多様になっていますが、現在ではほとんど全てに充電可能なリチウムイオンが使用されているのです。一方で、そのリチウムイオンバッテリーに起因する発火や火災の報告が増えているのをご存知ですか？今回は、最近報告された航空機内での具体的な事例を紹介致します。



2011年11月25日 ZL319 便（豪州国内線のコンピューター機）で、着陸前に大量の濃い煙を出しながら、搭乗者の携帯電話（iPhone4）が赤い火柱を伴いながら発火を起こした。当該航空会社の緊急対策手順に基づいて、客室乗務員が適切に処置を行ったおかげで、火柱は消火され、乗員乗客に怪我などは無かった。この携帯電話は捜査当局に提出され、現在も発火の原因の解明が行われている。



拡大図



2011年7月29日、エジプト・カイロ空港で乗員乗客 307 名が乗ったカイロ発ジェッダ行きのエジプト航空 B777-200 型機が、全ての準備を整え Push Back 指示を待っていた際に、操縦室右席後方から濃い煙と共に発火が起きたが、幸運にも空港の消防機関によって鎮火出来た。現時点で火災の原因は、パイロットが持っていたノートパソコンの充電不良で発火し、隣接した酸素マスクシステムを巻き込んで大きく燃え上がったと考察されている。写真から分かる通り、機体だけでなく操縦室のガラスをも溶かすほどの高熱が発生し、機体には相当なダメージを与える結果になった。ノートパソコンが発火を起こす事例はまれに報告されるが、この様に機体構造までに影響を及ぼす規模の発火は初めてのケースである。

いかがでしたか？バッテリーが発火する仕組みは、外部からの衝撃やバッテリー内部の電解質が露出して発火するなど様々ですが、ひとたび航空機内で火災になれば大きな事故に繋がる可能性も十分にあり得ます。機内には乗員乗客の携帯電話やデジカメ、PC など様々なバッテリーが存在します。航空従事者として、今まで以上にこれらの取り扱いに関して慎重にする心がけと、乗客への呼びかけが必要なのかもしれません。

ALPA Japan DG 委員会

